

# ネットの安心安全な利用に関する取組と 今後の方向性について

2023年3月17日  
一般財団法人 マルチメディア振興センター  
プロジェクト企画部

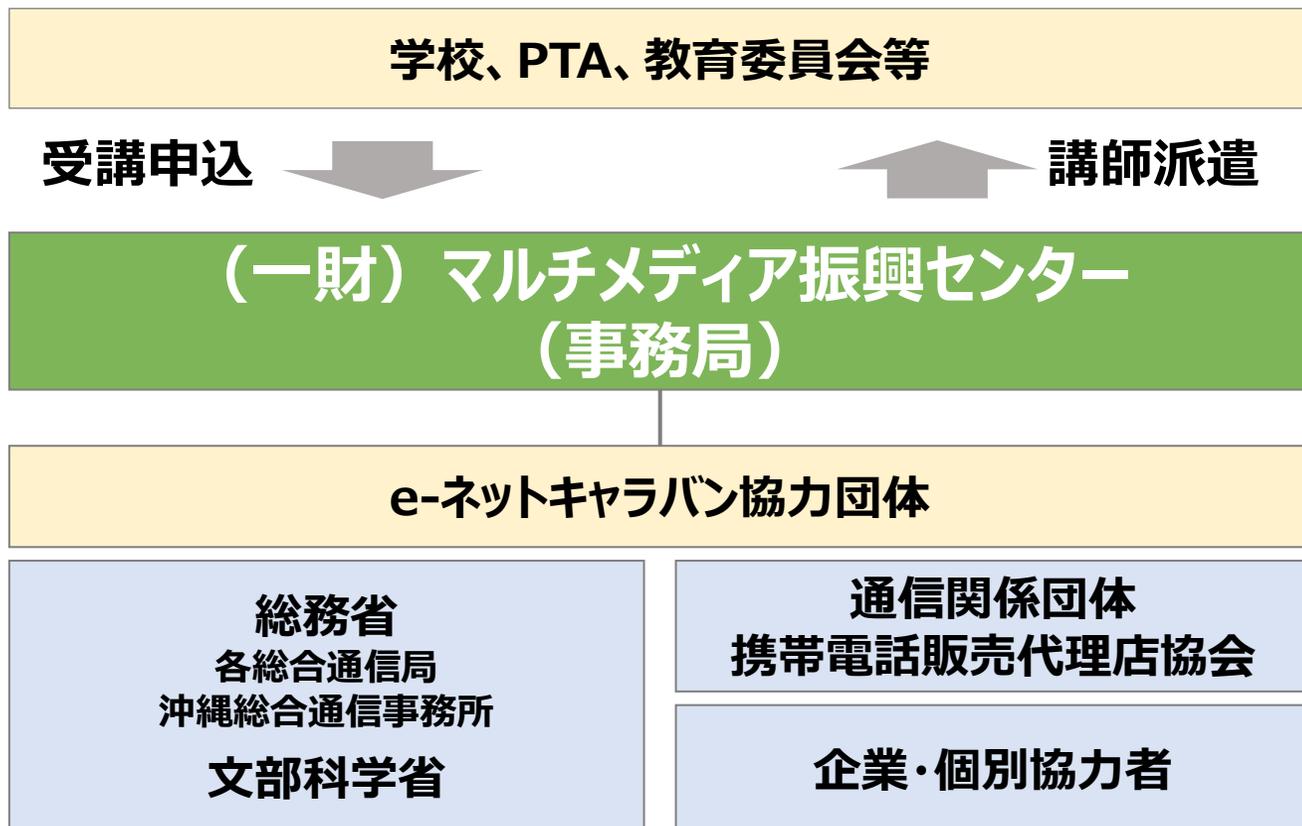
# 目次



- 1. e-ネットキャラバンの概要**
- 2. e-ネットキャラバンの課題と今後の取組の方向性（案）**
- 3. ICTリテラシー向上の取組を促進するために**

# 1.1 e-ネットキャラバン概要

- 子どもたちのインターネットの安全な利用を目的に、総務省・文部科学省・企業・団体の協力により全国で実施中
- 各地の企業・団体は、無償で職員を講師に派遣する等、CSR活動と位置づけ参加
- (一財) マルチメディア振興センターは、事務局として受講申込と講師のマッチングや講師への研修、教材作成等を実施



協力講師・団体数 (2023.3月末見込み)

- 直近4年登壇あり講師数：約1,200名
- 通信事業者等民間団体:515団体
- 公益法人:23団体
- 政府、自治体：2省・74団体
- その他：60団体

国の役割

- 講師派遣
- 講師講習会の開催
- 講師派遣の調整事務
- 自治体、学校関係者等への周知 等

# 1.2.e-ネットキャラバン講座内容

- 小学生から保護者・教職員までを対象に幅広く開講
- ネット利用の危険性などを事例をまじえ網羅的に伝える内容
- 2022年6月に個別コンテンツ講座として「ニセ・誤情報」(VOD)を開始

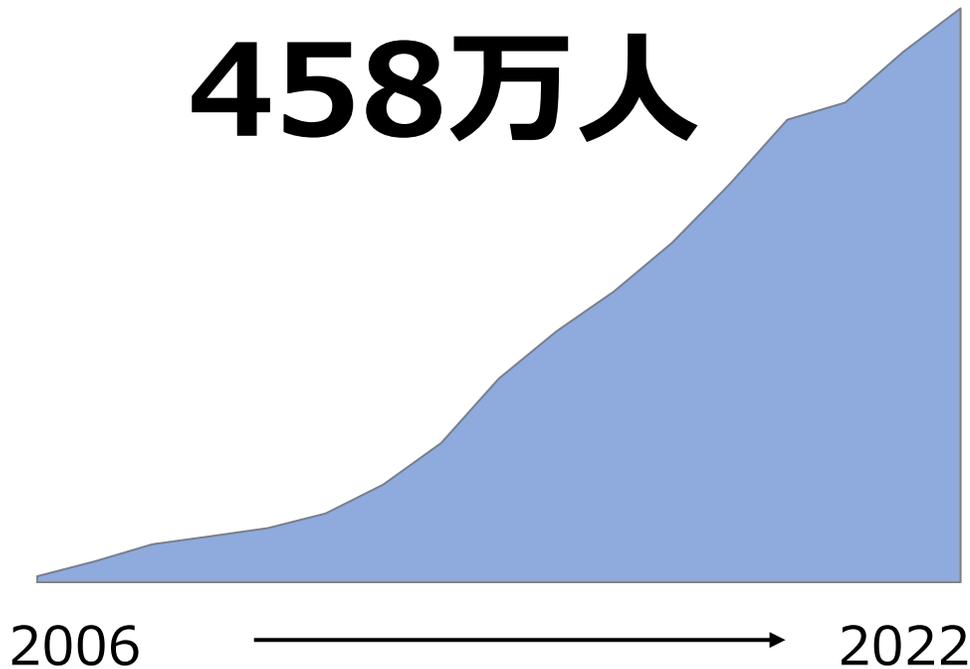
対象	小3年生～4年生	小5年生～6年生 中学1年生	中学2・3年生 高校生	保護者・教職員
時間	45分	45分	50分	60～90分
内容	<p style="text-align: center;"><b>ネット上7つの「危険」の、事例、予防・対策を講義</b></p> <p style="text-align: center;">① ネット依存 ② ネットいじめ ③ 不確かな情報の拡散 ④ 誘い出し・なりすまし ⑤ 個人情報 ⑥ ネット詐欺 ⑦ 著作権・肖像権</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div data-bbox="1098 1068 1396 1292"> <p style="text-align: center;">アルバイト応募が招いた犯罪への加担</p> <p>SNSを見ていたら、「高額バイト」情報が。連絡してみたら、簡単な仕事で高校生でもOKとのこと。指示された家まで行ったものの、怖くなってうろうろしていたら、警察官が。 <b>オレオレ詐欺の片棒を担がされていたことがわかり、警察へ。</b></p> </div> <div data-bbox="1949 1001 2379 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>スマホ利用ルール づくり・フィルタリング</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p><b>ニセ・誤情報 (VOD)</b></p> </div>			

# 1.3.e-ネットキャラバン講座実施数

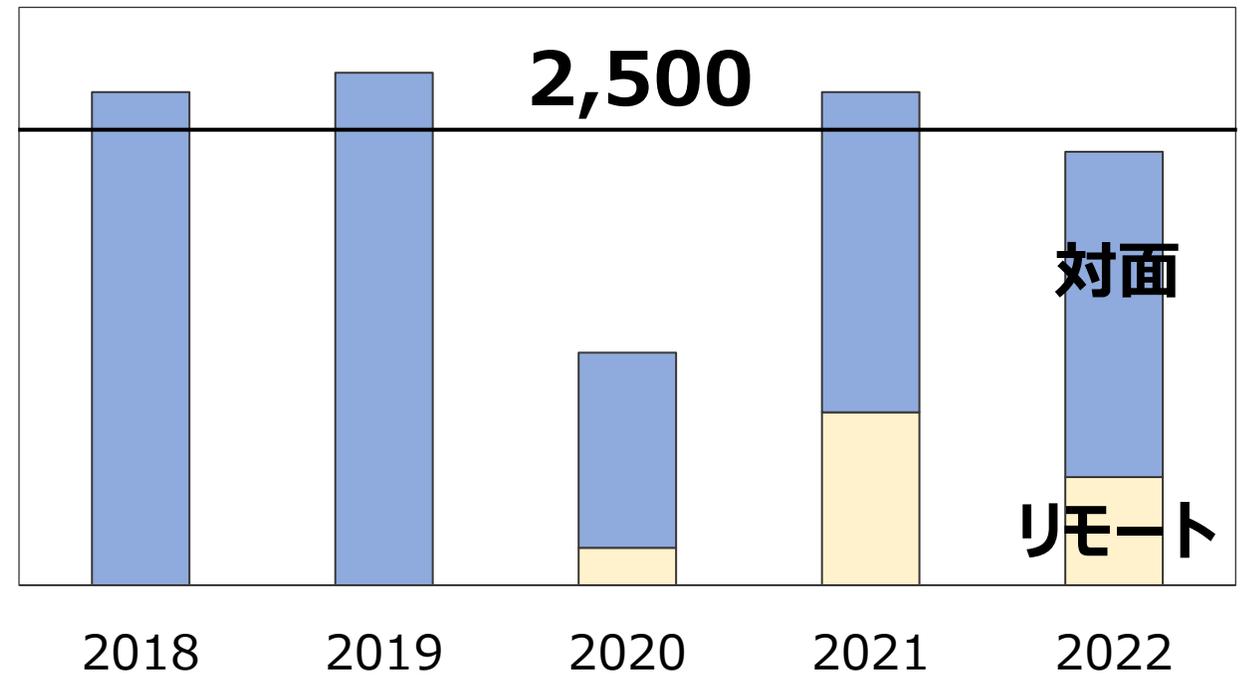
- 2006年に開始し2022年で17年目。累計受講者数は458万人超
- 講座実施数は年間約2,500回で推移
- 各地の講師が対面の良さを活かした講義を展開
- コロナ禍を受け2020年にリモート講座開始

累計受講者数

458万人



講座実施数の推移



## 2.e-ネットキャラバンの課題と今後の取組の方向性（案）

GIGAスクール構想進展により家庭だけでなく学校でのICTの利用が当たり前となる中、e-ネットキャラバンについても講座内容等の見直しが必要と考えている

### (1)講座内容・伝え方

#### <課題>

- 7つのリスクを1つの講座で広く薄く学ぶ（詰め込みすぎ）
- トラブル事例を講義形式で話す（自分ごととしてとらえづらい）
- 困ったときや、トラブルにあった際の相談先等、具体的対応を聞かれるケースも

#### <今後の方向性（案）>

**「講座の双方向化」「受講者が主体的に考える講座」「相談先の紹介等の追加」**  
**の方向へ数年かけてシフト**（既存講座も一定期間継続）

#### （具体例）

- 学齢ごとに大きく3テーマ程度（例：ネットいじめ、なりすまし・誘い出し、ネット依存）を用意し、その中から学校が選択。  
ワークシートを用いて受講者が考え、講師や友達と議論しながら受講するスタイルへ
- 講座の最後に相談先を紹介

## 2.e-ネットキャラバンの課題と今後の取組の方向性（案）



### (2) 講師の確保、育成

#### <課題>

- 講座内容・伝え方の変更に伴う、講師のスキルアップ、再研修が必要
- 学校ニーズに応じて対面での実施を前提とすると、場所によって講師が手薄・手配が困難な場合あり  
(ボランティアという性質上、特に地方で確保が困難な場合あり)
- 内容が専門的・高度になると、eネットキャラバン講師だけでの対応が難しい
- 企業ボランティア講師に無償で協力して頂いており、活動内容を増やす、大きく変更することが難しい

#### <今後の方向性（案）>

- 外部団体と連携し、講師のスキルアップ研修を実施
- オンラインでの講座実施の推進
- 専門性等が必要とされる分野で外部団体と連携した講師派遣等の検討

# 3. ICTリテラシー向上の取組を促進するために

## (1) 社会全体としての取組の必要性と基本方針の提示

社会全体としての取組の必要性や方向性（前提を含む）をロードマップに基本的考え方として書き込み、学校、各企業・団体が取組みの指針とできるようにしてはどうか

### ＜基本的考え方の例＞

- 光（利活用）と影（リスク回避）がともに必要
- 安心安全利用の分野は従来のリスクに重点を置いた、脅しての注意喚起ではなく、青少年が自分ごととして考えられるような教育が必要
- 学校での教育と外部団体が行う啓発活動等との連携が必要
- 外部団体の活動については、各団体のもつ強み、特徴や、リソースを生かしつつ、各団体のもつ制約も相互に認め合ううえで連携していくことが、ICTリテラシーに関する取組全体の水準を上げ、ひいては対象とする青少年へのより良い教育機会の提供につながるのではないかと

### 3. ICTリテラシー向上の取組を促進するために

#### (2) ICTリテラシーの教材例作成並びに学習目標及び学習効果の可視化

- 基本的考え方に基づいて、ベースとなる教材例（ガイドライン）を提示、学校、団体がアレンジして利用できるようにするとよいのではないか
- 学校等からみると、各団体の提供している講座、教材等がどのように授業等で使えるかわかりづらいので、取組ごとに学習目標を統一的に示し、各団体がラベリングできるようにするとよいのではないか
- ネットの安心安全の取組については、学習効果が見えづらいことから、学習効果を測るツール等を提供できないか

# 3. ICTリテラシー向上の取組を促進するために



## (3)各団体・企業の取組への支援

- 団体・企業の取組のモチベーションを高め、同時により多くの方に取組を知っていただく機会を提供するような取組、働きかけが必要ではないか。  
例えば、団体・企業の活動に光が当たるような表彰の実施などはどうか
- 講座を提供する活動をする団体では、講師の育成やスキルアップが課題となっていることから、講師育成を支援（例：講師向け教材のひな型の作成、団体・企業連携のきっかけとなるような取組紹介、講師育成への助成等）するような取組はできないか